

(様式1)

九州大学大学院医学研究院保健学部門長候補者推薦申し出様式

私達は九州大学大学院医学研究院保健学部門長
選考内規第10条第1項第二号の規定に基づき、
下記の方を部門長候補者として推薦いたします。
す。

なお、推薦に当たっては被推薦者の同意を得
ていることを申し添えます。

氏名 藪内 英剛



令和 3年 11月 17日

推 薦 人

所属・職・氏名・印 保健学部門・教授 藤田 君支



所属・職・氏名・印 保健学部門・教授 内海 健



所属・職・氏名・印 保健学部門・教授 有村 秀孝



※注 推薦人は、令和3年11月17日現在、在籍している以下の者とする。

保健学部門の専任の教授、准教授、講師、助教及び准助教

選挙管理委員会委員

受付 令和 3年 11月 17日 有村秀孝



(様式2)

九州大学大学院医学研究院保健学部門長候補者推薦申し出様式

私達は 藪内 英剛教授 を九州大学大学院医学研究院保健学部門長候補者として推薦する理由を、以下のとおり提出します。

令和 3年 11月 17日

氏名 藤田 君支

氏名 内海 健

氏名 有村 秀孝



推薦理由 (400字以内)

藪内英剛候補者は、平成21年に保健学部門准教授として赴任し、27年に同教授に就任し、13年の在籍となる。これまで、学部教育および大学院修士課程・博士後期課程の運営と発展に大きく貢献してきた。

学部教育では、解剖生理学や医学総論などの3分野共通の医療系基礎教育科目のみならず、放射線技術科学専攻の学部生に対する画像解剖学、MR画像技術科学、臨床イメージング等の学部専門科目教育、また大学院では分子機能画像科学論、保健医療とデータ科学等の専門科目教育にも携わってきた。

大学院教育においては、これまで多数の修士、博士を輩出し、全国の大学医学部、医療系企業、大学病院、地域基幹病院等で指導者として活躍している。

部門内のみならず、臨床医としても九州大学病院臨床放射線科の胸部診断領域で臨床に従事し、CTやMRIの画像診断にも貢献している。

我が国における超高齢化・少子化に伴い、社会から大学に対して、保健・医療・福祉における様々な課題に対応できる高度専門医療職の人材育成が求められており、本学において3分野の専門領域を連携できる保健学部門の意義は大きいものがある。

保健学の特色を活かして、これまでの教育・研究の経験を本部門の発展に尽力できる人材として、ここに藪内英剛教授を保健学部門長候補として推薦する。

選挙管理委員会委員

受付

令和3年11月17日

有村秀孝



所信表明

氏名 藪内 英剛

この度、藤田君支教授、内海健教授、有村秀孝教授の推薦を受け、保健学部門長に立候補させていただくこととなりました。

私は1989年に本学医学科を卒業し、放射線科学教室に入局し画像診断を専門として、臨床、研究、教育に従事してきました。2009年に保健学科に赴任以降は、保健学科の学部生・大学院生の教育と研究の指導に携わるとともに、2017年～2020年の4年間は医用量子線科学分野長として管理・運営にも関わって参りました。この間に多職種連携により良い医療を実現する重要性を認識し、保健学部門でも3専攻の多様性のある職種の教員が協力することで生まれる教育、研究の素晴らしさを実感しています。

保健学は健康を守り保つ学問であり、我が国の高齢化や少子化に対して、予防医学や老年医学などに対応する高度な専門性をもつ医療人材の育成が、本部門に対して社会から期待されています。看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻の多様性を活かして、教育、研究、国際化の各領域では国内でトップレベルの教育・研究機関として更に発展できるよう体制を整えたいと思います。

保健学部門の運営で私の目指すもの

・教育

高度な専門知識を備え、個別化する医療において指導者となる人材の養成、特に研究マインドと高い志を持った高度な医療人の育成が本部門には求められています。限られた教員数で、医療系基礎教育から専門科目教育、大学院教育まで効率よく教育効果を上げるため、3分野で連携した人員配置や協力体制を構築し、教員数の削減による影響を回避するため、積極的にポスト獲得を図ります。

・研究

保健学部門内の3分野の連携や特に若手教員の研究を推進するため、予防医学、AIを活用した医療の効率化など分野間、施設間での共同研究を進め、3分野で連携した研究を推進し、部門共通の研究を模索し、「保健学」としての研究領域を確立したいと考えています。

・国際交流

これまで進めてきた海外提携校との学術交流協定、短期留学の受け入れ・派

遣、海外学会発表、国際フォーラム、アジア保健学コースの留学生受け入れなど保健学部門における国際化を、更に今年度より設置された部局国際推進室と連携しながら、国際交流を一層進めていきます。

上記の3点を中心として、3分野の皆様力を結集して、微力ながら保健学部門の発展に貢献していきたいと思っております。